

## ■□ 第1回隠岐地域水産物の島内流通検討会 □■

日時	令和元年8月27日(火) 13時00分～14時30分
場所	隠岐支庁 6F 大会議室
出席者	別紙名簿のとおり

### 目的

- ・隠岐地域における地元水産物の島内流通について、関係者が現状の仕組み（流通形態）と認識を共有し、円滑に拡大するための流通の仕組み等を検討する。

### 概要

○次長より挨拶の代読。

- ・別紙挨拶文を出席者全員に配布し、挨拶を代読。
- ・今後の進め方について、次第の記述を参考に説明。

○水産物の流通等の現状として説明

- ・隠岐支庁水産局より、資料（別添）に基づき説明。
- ・隠岐支庁県民局より、資料（別添）に基づき説明。

○上記説明を踏まえ、各参加者から、現状に対する考えや現在の流通状況等についてそれぞれの意見を発言。

#### ◎観光・商工関係①

- ・観光客をターゲットに考えるべき。ただし、関係者の生業が成り立つことが重要。
- ・後継者のいない鮮魚店が多い中で、日持ちしない魚の仲介リスクを鮮魚店が被るのは難しい。
- ・水産物の流通の議論では「価格を安く」という意見があるが、観光客も地元も美味しい物なら高くても購入するのではないか。

#### ◎観光・商工関係②

- ・飲食店等の事業者の3割が今後数年でやめると回答している。地域経済が縮小する中、島内流通を進め、地域内経済循環を形成する必要がある。
- ・水産物の島内消費量を把握しているか。

#### ◎漁業関係

- ・島内に水揚げされた定置網や一本釣りの水産物は、買受人に、朝、境港への出荷前に買ってもらっている。
- ・過去、市場で競りを行ったこともあるが買いたい魚に集中した結果、境港価格より高騰したことがある。
- ・他の離島で市場が機能している例はないか。

#### ◎小売関係①

- ・地元2割（鮮魚店経由）境港から8割で取引。境港8割のうち5割が隠岐近海物（定置物も多い）。
- ・地元2割を増やせないのは値段が後から決まるリスクのため。
- ・仲介事業者が需給を管理し、売れ残った場合は加工するという仕組みがあると良い。

#### ◎小売関係②

- ・地元9割・境港1割で取引。
- ・旅館、民宿、幼稚園、老人ホームが主な販売先。一般客の販売はほとんどない。



- ・ 盆の夏枯れ時期の調達に苦慮している。
- ・ 見込みで取引した場合に注文が無かったときのリスク管理が難しい。

#### ◎飲食関係①

- ・ 観光客が多い。
- ・ 二人で商売をやっておりたくさんの客対応が難しいことから仕入れは少量。JFからの箱買いは難しい。
- ・ 鮮魚は3日が限度のためロスの管理が大変。
- ・ 地元の者は知り合いの漁師から分けてもらうため鮮魚店で買うことは少ない。

#### ◎飲食関係②

- ・ 価格よりも物が手に入らないことが問題。
- ・ 今年のGW、3000 円の昼定食メニューを出した。売上は少なかったが満足の声をいただいた。

#### ◎宿泊関係

- ・ 観光客のニーズは魚介類中心であるのは確か。
- ・ ロットの関係もあり、JF から仕入れたり境港から仕入れたりの両面。
- ・ 選べる魚種が豊富で安くて物も良いというのが理想だが、市場原理に沿った現状は致し方ないのではないか。
- ・ 現状を変えようとするなら加工など多角的な工夫が必要ではないか。

#### ◎行政関係①

- ・ 隠岐の魚に対する観光客の意見は承知しているが、町にロス問題を克服する妙案はない。

#### ◎行政関係②

- ・ 観光客の魚介類に対する要望は高いと認識。観光客はお金を出しても新鮮な良いものを食べたいということがある。
- ・ 特に港周辺の昼食に地元の魚を食べるところが少ないことを問題視している。

#### ◎行政関係③

- ・ 島内の鮮魚店やスーパーはほとんどの魚を境港から仕入れている。
- ・ 観光客が地元の魚を食べられないという意見もあるが、町民が地元の魚を買えないことが問題という認識から朝市を始めた。町民に好評。
- ・ スーパーや宿泊施設等による購入は今後検討していく。